

## みんなが望む政治家らしい政治家との狭間で、後編

「Aをやって欲しい」「Aをやめて欲しい」同じ日に全く真逆の陳情を受けます。第3の解決策を提示すると双方からボロクソに批判されます。通りすがりの方に10秒位で陳情をされます。自分なりに現地を調査し、市職員と時間をかけて対応を行います。後日その方にお会いすると「何もやっていない！」と叱責されます。よくよくお話を聞くと前回とは全く違う陳情内容が話されたりします。（※陳情を依頼される方は、できれば連絡先を教えていただけるとありがたいです。）ただ、その方たちには共通してお願いしている事は、「自治会におけるコンセンサス(意見の合意)を(場合によっては私がお手伝いして)とする事の大切さ」だったり、「人に対する憎しみから端を発する行政への指示の無意味さ」だったりするのですが、私より3回りも4回りも年上の方たちには生意気に映るのみのようで自分の不甲斐なさを思い知らされています。また、今までの活動の効果もあつたのか、自殺の危機に正に直面している方たちからもご連絡をいただけたりします。その方の主治医メインで対応させていただいていますが、雑談形式でお話するその方の抱えている悩みの大きさに、私も影響されてしまい、夜、解決策を求めて何時間も寝られなくなったりしてしまいます。

自分の無力さを痛感させられる毎日ですが、それでもなお、情熱を持って、使命感を持って、今の限界を突破したいです。「議員は報われない仕事だ」と現状を諦めてしまう事は簡単かも知れませんが、私は「みんなが考えている従来型のステレオタイプな議員では世の中が良くなるのではないのではないか？」という仮説を持っています。極論すれば「激しく世の中に突きつけていくものが無ければ、議員をやっている意味がない。」とすら感じています。気づかないうちに易きに流されているのではないかな：現状の困難の先にこそみんなの幸せがあるのではないかな：試行錯誤の毎日です。どうかみなさんも「今後も住み続けてみたい市川市」を思い描き、話し合ってみて下さい。個々人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成25年10月1日

増田好秀